

2025年3月期 決算説明資料

2025年5月9日

 **JX金属株式会社**

目次

1

ハイライト

2

2024年度（2025年3月期） 通期実績

3

2025年度（2026年3月期） 通期見通し

半導体・情報通信分野に欠かせない先端素材をマーケットに供給するグローバルトップメーカー
事業・主力製品

高度な技術的差別化の実現により、グローバル競争優位性を持つ当社成長戦略のコア事業

フォーカス事業

半導体材料

薄膜材料

半導体用ターゲット ★



半導体ウエハにナノレベルの膜を形成するために必要な金属材料

InP基板 ★



光通信用の受発光素子材料

CdZnTe基板



放射線・赤外線センサー素子に使用される単結晶基板

磁性材用ターゲット ★



大容量ハードディスクドライブに膜を形成するために必要な金属材料

CVD⁴/ALD⁵プリカーサ材料



CVD/ALDによる薄膜形成に使用される金属原料

情報通信材料

機能材料

圧延銅箔



FPC（フレキシブルプリント基板）³に用いられる屈曲性に優れた金属箔

コルソン合金



コネクタ等に使用される強度・導電性・曲げ加工性に優れた合金材料

チタン銅 ★



★生成AIサーバ関連

最終用途例

サーバ



ウェアラブル



スマートフォン



モビリティ
(xEV/ADAS)



ベース事業

銅、レアメタル（タンタル、チタンなど）のサプライチェーン強化を通じて、フォーカス事業の成長を支える

注1：富士経済「2024年 半導体材料市場の現状と将来展望」（2023年実績、AI系を除く半導体用ターゲット市場における当社のシェア、販売金額ベース）

注2：富士キメラ総研「2024 エレクトロニクス実装ニューマテリアル便覧」（2023年実績、FPC向けのみ、出荷数量ベース）；注3：FPC(Flexible Printed Circuits)：絶縁性を持ったベースフィルムと銅箔等の導電性金属を貼り合わせた基材に電気回路を形成した基板；注4：Chemical Vapor Deposition；注5：Atomic Layer Deposition

ハイライト

■ 2024年度実績

売上高	7,149 億円 ▲53%
-----	------------------

フォーカス事業	4,131 億円 +33%
ベース事業	3,065 億円 ▲75%
その他	▲47 億円

営業損益	1,125 億円 +31%
------	------------------

フォーカス事業	518 億円 +90%
ベース事業	745 億円 ▲3%
その他	▲138 億円

為替	153 円/USD 6%円安
銅価	425 ¢/lb +12%

(前年同期増減率)

フォーカス事業：AI関連需要の伸長を主因とする主力製品の増販により増収

ベース事業：ポートフォリオ改革による金属製錬の原料・販売子会社や銅鉱山会社の非連結化により構造的に売上高縮小

フォーカス事業：主力製品の増販ならびに機能材料事業の構造改革の進展等により増益

ベース事業：為替円安や高水準の銅価を背景に堅調に推移するも、一過性損益等により若干の減益

■ 2025年度見通し

売上高	7,400 億円 +4%
-----	-----------------

フォーカス事業	4,600 億円 +11%
ベース事業	2,800 億円 ▲9%
その他	-

営業損益	950 億円 ▲16%
------	----------------

フォーカス事業	520 億円 +0%
ベース事業	540 億円 ▲28%
その他	▲110 億円

為替	140 円/USD 8%円高
銅価	410 ¢/lb ▲4%

(前年同期増減率)

米国関税・マクロ経済環境悪化による需要減(※)を織り込み

フォーカス事業：主力製品を中心に増販増収を見込むものの、マクロ経済環境の悪化を織り込み、成長率は一時的な鈍化を予想

ベース事業：為替円高・銅価下落の前提により減収

フォーカス事業：増販増収を見込むも、米国関税影響や成長率の一時的鈍化、為替円高の影響等により、前年度並み

ベース事業：前年度一過性利益の反転や為替円高・銅価下落前提等により減益

※マクロ経済環境の悪化による主力製品の成長鈍化と関税の直接影響をあわせて▲100億円を見込む

2024年度（2025年3月期） 通期実績

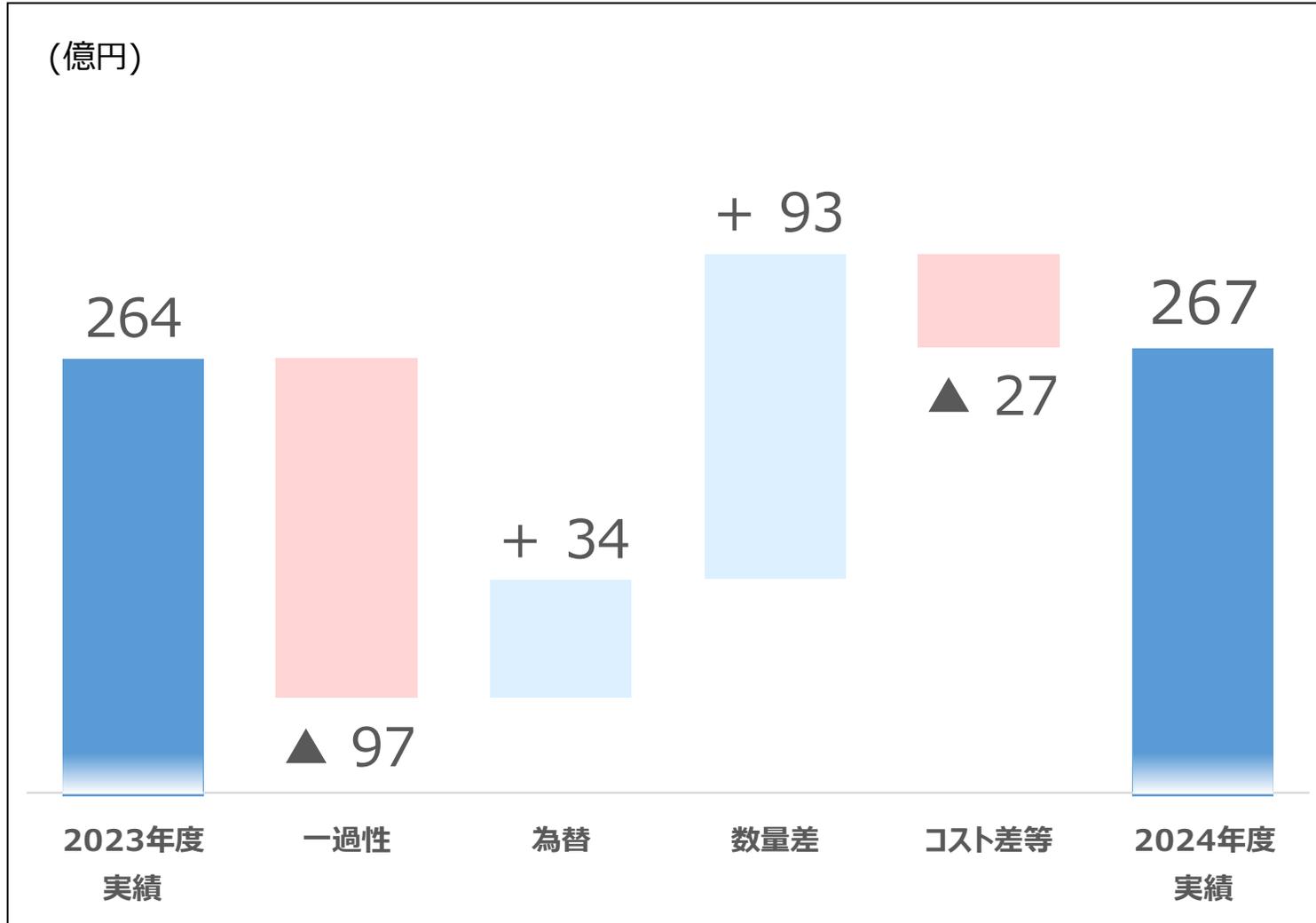
連結損益計算書

(億円)	2023年度	2024年度	前年同期比	
	実績	実績	差異	増減率
売上高	15,123	7,149	▲ 7,974	▲53%
(フォーカス事業)	3,113	4,131	+ 1,018	+33%
(ベース事業)	12,270	3,065	▲ 9,205	▲75%
(その他)	▲ 260	▲ 47	+ 213	-
営業損益	862	1,125	+ 263	+31%
(フォーカス事業)	273	518	+ 245	+90%
(ベース事業)	772	745	▲ 27	▲3%
(その他)	▲ 183	▲ 138	+ 45	-
税引前利益	787	1,075	+ 288	+37%
当期利益	1,149	814	▲ 335	▲29%
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,026	683	▲ 343	▲33%
為替(円/USD)	145	153	+ 8	+6%
LME銅価(¢/lb)	平均 379	425	+ 46	+12%
	前期末/当期末 405/396	396/439		

事業セグメント別 売上高及び営業損益

			2023年度	2024年度	前年同期比	
(億円)			実績	実績	差異	増減率
フォーカス事業	半導体材料	売上高	1,232	1,480	+ 248	+20%
		営業損益	264	267	+ 3	+1%
	情報通信材料	売上高	1,881	2,651	+ 770	+41%
		営業損益	9	251	+ 242	+2,689%
ベース事業	基礎材料	売上高	12,270	3,065	▲ 9,205	▲75%
		営業損益	772	745	▲ 27	▲3%
その他	事業共通費用等	売上高	▲ 260	▲ 47	+ 213	-
		営業損益	▲ 183	▲ 138	+ 45	-
合計		売上高	15,123	7,149	▲ 7,974	▲53%
		営業損益	862	1,125	+ 263	+31%

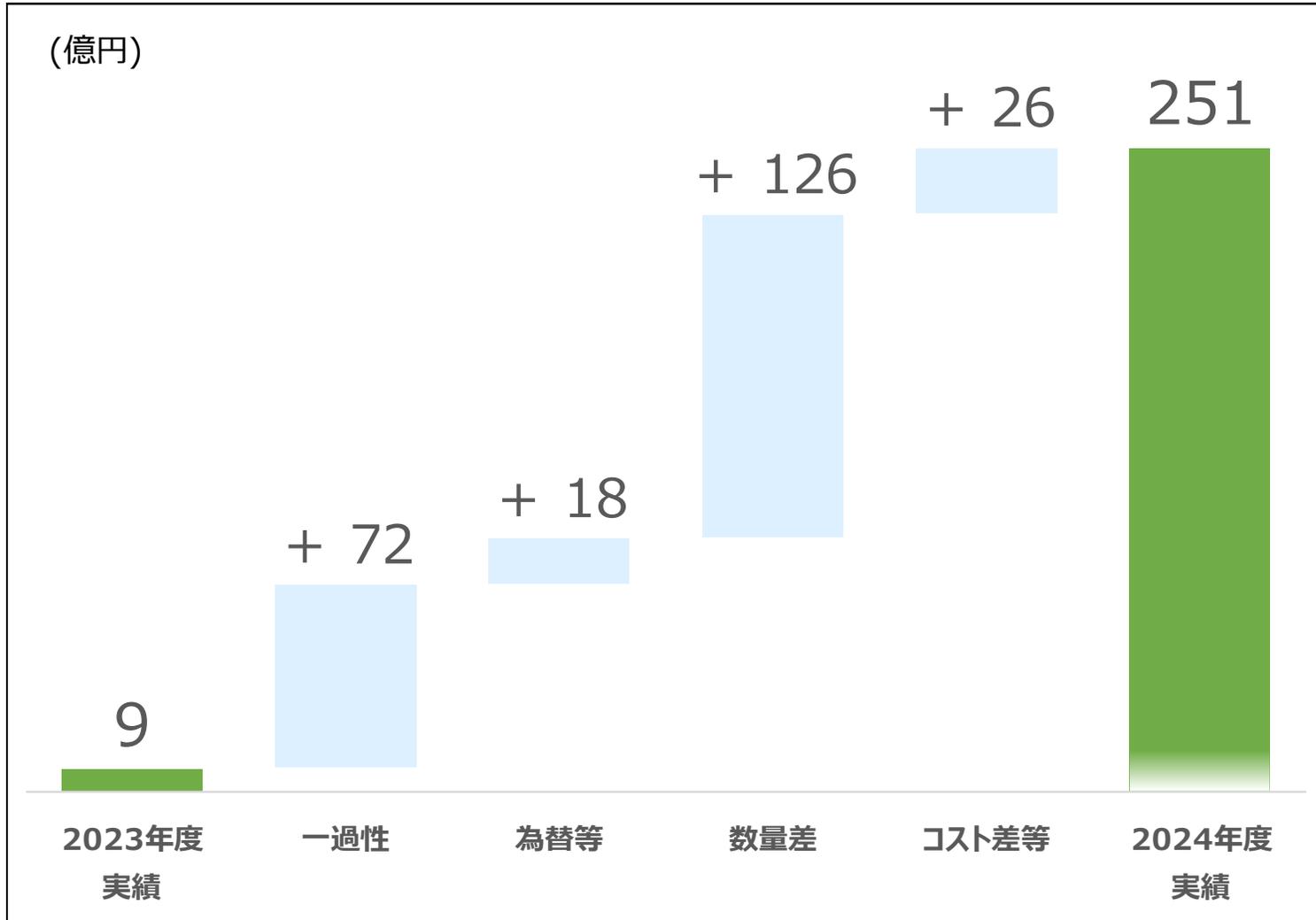
営業損益差異分析 半導体材料セグメント[2024年度実績 対 2023年度実績]



- 薄膜材料事業はAI関連需要の拡大を受け、主力製品の増販により増益
- タンタル・ニオブ事業は一過性損失計上

	億円	2023年度	2024年度	前年同期比	
		実績	実績	差異	増減率
薄膜材料	売上高	1,019	1,275	+ 256	+25%
	営業損益	281	342	+ 61	+22%
タンタル・ニオブ	売上高	338	345	+ 7	+2%
	営業損益	▲ 10	▲ 68	▲ 58	-
調整等	売上高	▲ 125	▲ 140	▲ 15	-
	営業損益	▲ 7	▲ 7	-	-
セグメント合計	売上高	1,232	1,480	+ 248	+20%
	営業損益	264	267	+ 3	+1%

営業損益差異分析 情報通信材料セグメント[2024年度実績 対 2023年度実績]

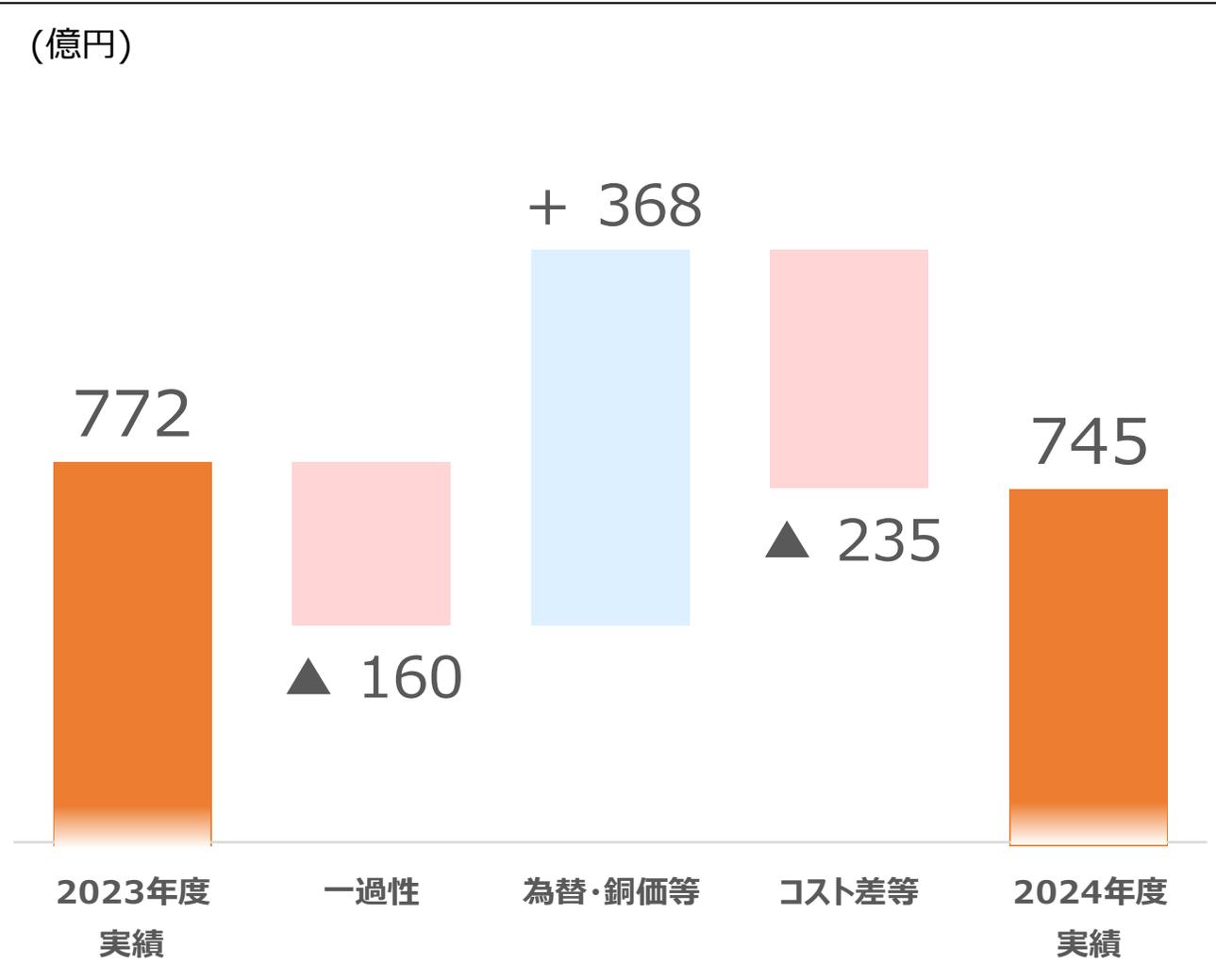


- 機能材料事業において、在庫調整の一巡や、AIサーバ用途での採用拡大に伴う増販、構造改革の進展等により大幅増益
- タツタ電線TOBに伴う負ののれん計上

	億円	2023年度	2024年度	前年同期比	
		実績	実績	差異	増減率
機能材料	売上高	1,102	1,393	+ 291	+26%
	営業損益	▲ 59	128	+ 187	-
東邦チタニウム、 タツタ電線等	売上高	779	1,258	+ 479	+61%
	営業損益	68	123	+ 55	+81%
セグメント合計	売上高	1,881	2,651	+ 770	+41%
	営業損益	9	251	+ 242	+2,689%

営業損益差異分析 基礎材料セグメント[2024年度実績 対 2023年度実績]

(億円)



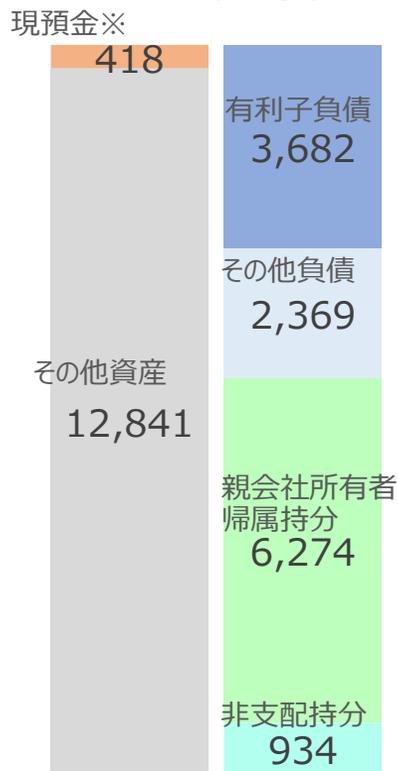
- 前年度為替評価益の反転等、一過性要因で減益
- 事業は、為替円安・高水準の銅価を背景に堅調に推移

	億円	2023年度	2024年度	前年同期比	
		実績	実績	差異	増減率
資源	売上高	381	53	▲ 328	▲86%
	営業損益	521	556	+ 35	+7%
金属リサイクル	売上高	11,949	3,012	▲ 8,937	▲75%
	営業損益	159	209	+ 50	+31%
調整等	売上高	▲ 60	-	+ 60	-
	営業損益	92	▲ 20	▲ 112	-
セグメント合計	売上高	12,270	3,065	▲ 9,205	▲75%
	営業損益	772	745	▲ 27	▲3%

連結バランスシート/キャッシュフロー/株主還元

■ 連結バランスシート

(億円) 2024年3月末



2025年3月末



ネット有利子負債 3,264

2,429

必要な投資は実行しながら、営業キャッシュフローやカセロネス売却等によるフリーキャッシュフロー創出により、財務体質改善も進展

※ENEOSグループ金融での貸付金50含む

■ 連結キャッシュフロー

(億円)

2024年度
実績

営業キャッシュフロー	2,154
投資キャッシュフロー	▲ 221
資産売却(カセロネス一部権益等)	620
投融資等	▲ 841
フリーキャッシュフロー	1,933
財務キャッシュフロー	▲ 1,722
現金同等物の増減額	211
為替変動による影響等	5

■ 株主還元

配当方針

連結配当性向 20%程度を基本とした上で、当社の想定対比で銅価が上昇した結果として、ベース事業の利益が上振れた分については、その一部も株主に還元する方針

	2025年3月期	2026年3月期 (予定)
1株あたり 配当金 ※2	18円※1	15円
配当性向 ※2	24%	24%

※1 2024年11月に実施した配当(850億円)は除く

※2 銅価上昇を反映

投融资・減価償却費・研究開発費

(億円)	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績
投融资	1,057	792	923
減価償却費	666	391	440
研究開発費	136	159	178

ひたちなかにおける半導体用ターゲット増産対応投資等を中心に、予定どおり実行中

2023年度までのベース事業のポートフォリオ変革による一部事業の非連結化後は、設備投資実行を主因に、増加傾向

先端素材企業として、成長に必要な研究開発を実施

中長期事業目標達成に向けた進捗

		2023年度	2024年度	2027年度	
		実績	実績	目標	※
営業利益	[連結]	862 億円	1,125 億円	CAGR10%~15% (2023年度-2027年度)	
	(YoY成長率)		30.5%		
	[フォーカス事業]	273 億円	518 億円	CAGR35%~40% (2023年度-2027年度)	
	(YoY成長率)		89.7%		
営業利益率	[連結]	5.7%	15.7%	12%~17%	
	[フォーカス事業]	8.8%	12.5%	15%~20%	
	[半導体材料セグメント]	21.4%	18.0%	25%~30%	
	[情報通信材料セグメント]	0.5%	9.5%	8%~13%	
営業利益構成比率	[フォーカス事業]	26%	41%	67%以上	
	[半導体材料セグメント]	25%	21%	45%以上	
ROE		18.3%	11.0%	10%以上	
NET Debt/EBITDA倍率		2.6倍	1.6倍	1.5倍未満	

※2024年5月14日時点の前提に基づき策定。今般の米国の大幅な政策転換を受け、世界経済に大きな影響が及ぶと懸念される場合には、環境変化を踏まえ、見直す可能性がある

2025年度（2026年3月期） 通期見通し

連結損益計算書

(億円)	2023年度	2024年度	2025年度	前年同期比	
	実績	実績	見通し	差異	増減率
売上高	15,123	7,149	7,400	+ 251	+4%
(フォーカス事業)	3,113	4,131	4,600	+ 469	+11%
(ベース事業)	12,270	3,065	2,800	▲ 265	▲9%
(その他)	▲ 260	▲ 47	0	+ 47	-
営業損益	862	1,125	950	▲ 175	▲16%
(フォーカス事業)	273	518	520	+ 2	+0%
(ベース事業)	772	745	540	▲ 205	▲28%
(その他)	▲ 183	▲ 138	▲ 110	+ 28	-
税引前利益	787	1,075	880	▲ 195	▲18%
当期利益	1,149	814	710	▲ 104	▲13%
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,026	683	580	▲ 103	▲15%
為替(円/USD)	145	153	140	▲ 13	▲8%
LME銅価(¢/lb)	平均 379	425	410	▲ 15	▲4%
	前期末/当期末 405/396	396/439	439/410		

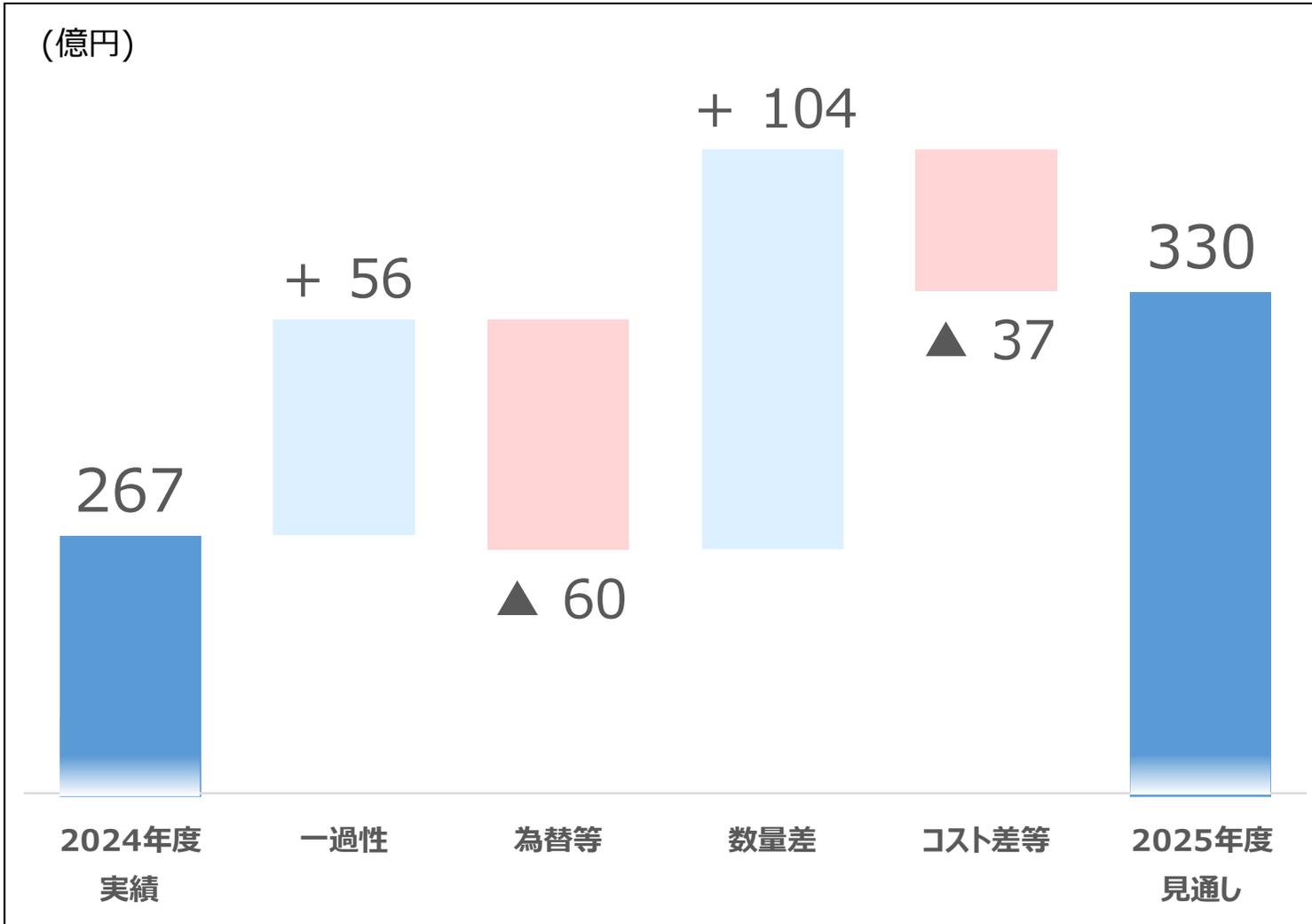
感応度	為替	銅価
単位：億円	5円円安	+10¢/lb
フォーカス事業	+40	-
ベース事業	+35	+35
合計	+75	+35

事業セグメント別 売上高及び営業損益

		(億円)	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 見通し	前年同期比	
						差異	増減率
フォーカス事業	半導体材料	売上高	1,232	1,480	1,600	+ 120	+8%
		営業損益	264	267	330	+ 63	+24%
	(内数) 薄膜材料事業	売上高	1,019	1,275	1,400	+ 125	+10%
		営業損益	281	342	370	+ 28	+8%
	情報通信材料	売上高	1,881	2,651	3,000	+ 349	+13%
	営業損益	9	251	190	▲ 61	▲24%	
ベース事業	基礎材料	売上高	12,270	3,065	2,800	▲ 265	▲9%
		営業損益	772	745	540	▲ 205	▲28%
その他	事業共通費用等	売上高	▲ 260	▲ 47	-	+ 47	-
		営業損益	▲ 183	▲ 138	▲ 110	+ 28	-
合計		売上高	15,123	7,149	7,400	+ 251	+4%
		営業損益	862	1,125	950	▲ 175	▲16%

営業損益差異分析 半導体材料セグメント[2025年度見通し 対 2024年度実績]

(億円)

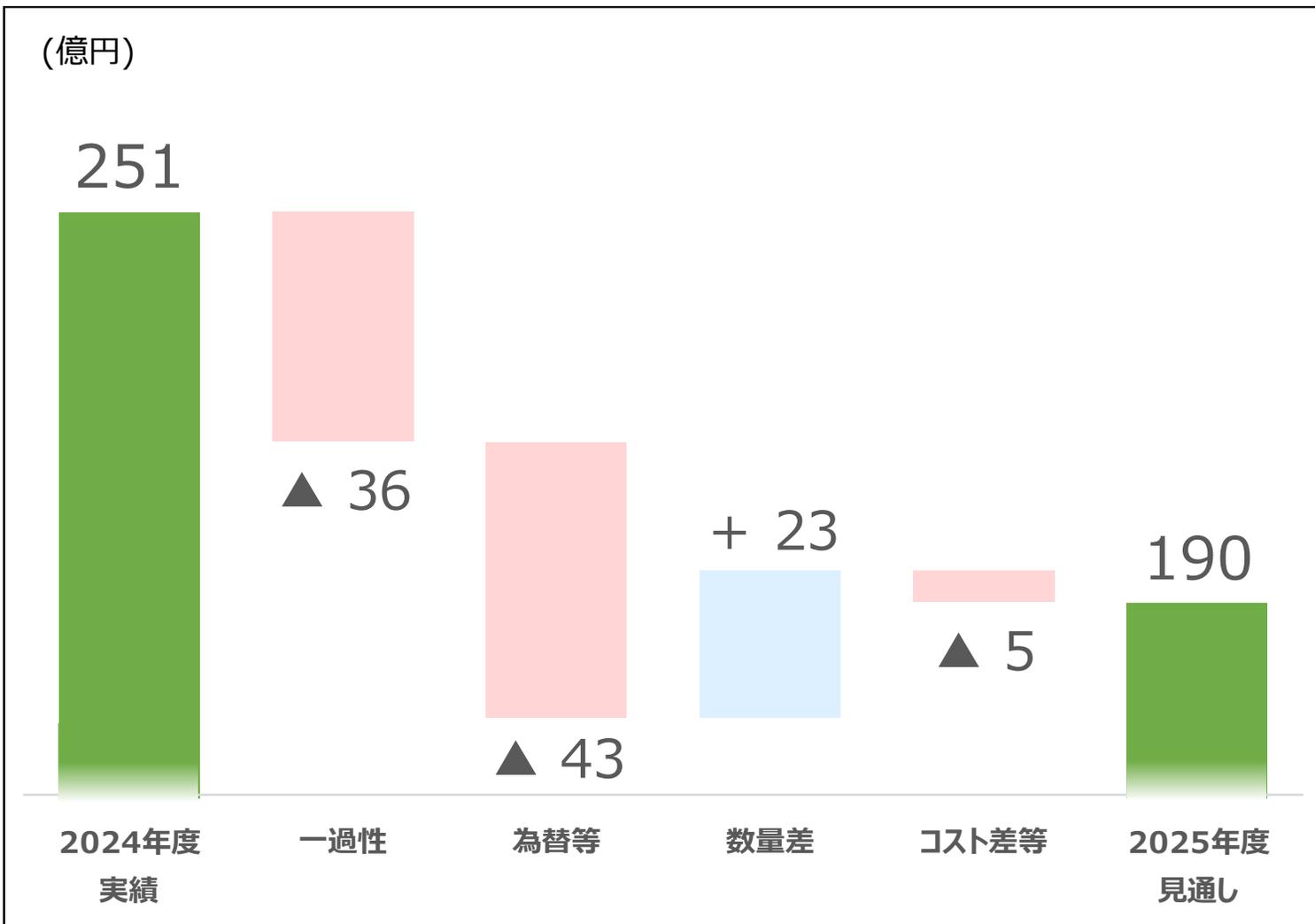


- 薄膜材料事業は、増収増益を見込むも、米国関税影響やマクロ経済環境悪化による成長率の一時的鈍化を織り込み
- タンタル・ニオブ事業においては、前年度一過性損失反転を主因に増益見込み。構造改革実行により、抜本的な収益力強化を図る

	億円	2024年度	2025年度	前年同期比	
		実績	見通し	差異	増減率
薄膜材料	売上高	1,275	1,400	+ 125	+10%
	営業損益	342	370	+ 28	+8%
タンタル・ニオブ	売上高	345	400	+ 55	+16%
	営業損益	▲ 68	▲ 40	+ 28	-
調整等	売上高	▲ 140	▲ 200	▲ 60	-
	営業損益	▲ 7	-	+ 7	-
セグメント合計	売上高	1,480	1,600	+ 120	+8%
	営業損益	267	330	+ 63	+24%

営業損益差異分析 情報通信材料セグメント[2025年度見通し 対 2024年度実績]

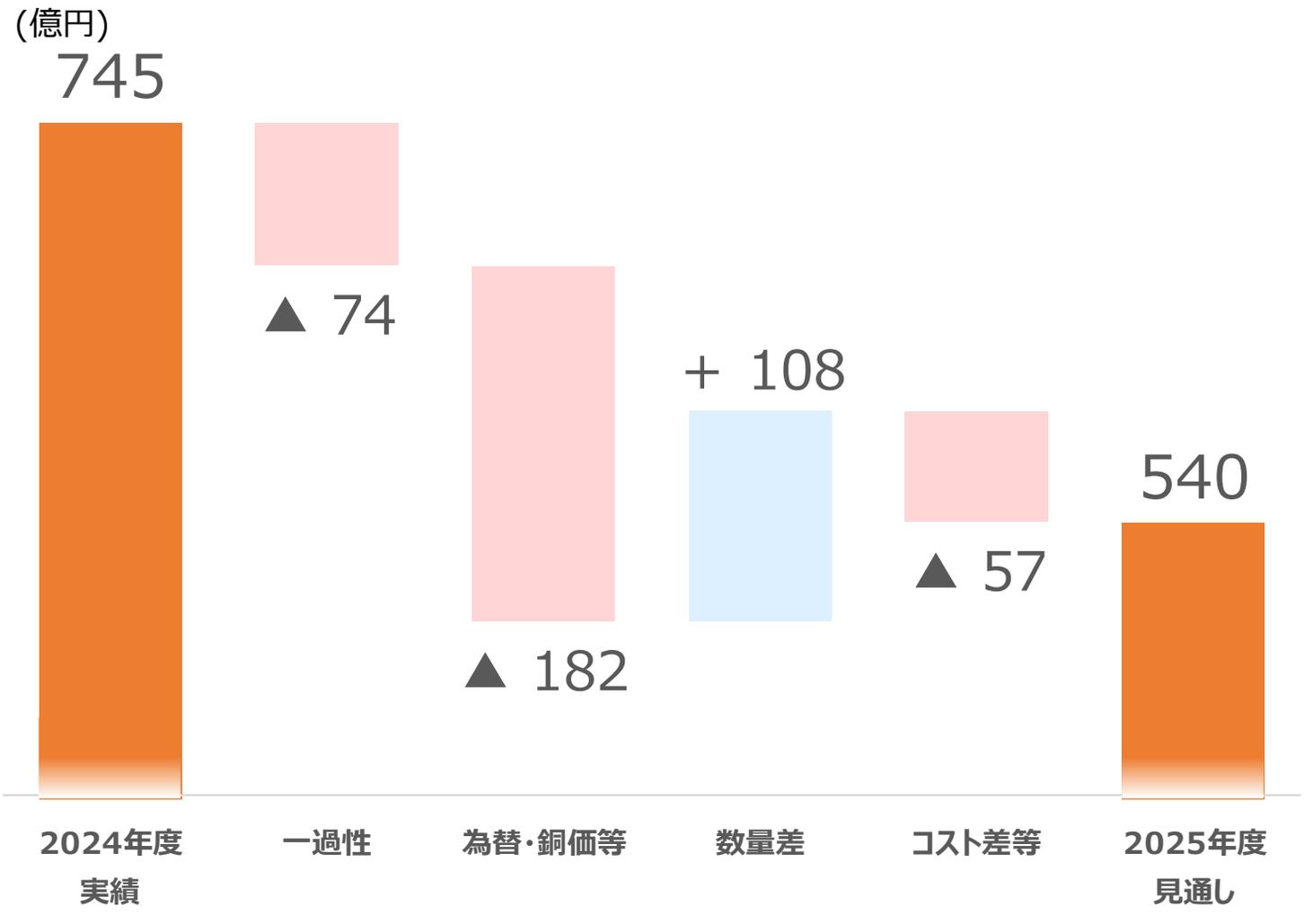
(億円)



- 機能材料事業における市況の堅調さは見られるものの、マクロ経済環境悪化影響の織り込みや為替円高の影響により若干の減益
- 前年度タツタ電線TOBに伴う負ののれん計上の反転により減益

	億円	2024年度	2025年度	前年同期比	
		実績	見通し	差異	増減率
機能材料	売上高	1,393	1,300	▲ 93	▲7%
	営業損益	128	120	▲ 8	▲6%
東邦チタニウム、 タツタ電線等	売上高	1,258	1,700	+ 442	+35%
	営業損益	123	70	▲ 53	▲43%
セグメント合計	売上高	2,651	3,000	+ 349	+13%
	営業損益	251	190	▲ 61	▲24%

営業損益差異分析 基礎材料セグメント[2025年度見通し 対 2024年度実績]



■ 前年度一過性利益の反転や為替円高・銅価下落前提等により減益

	億円	2024年度	2025年度	前年同期比	
		実績	見通し	差異	増減率
資源	売上高	53	-	▲ 53	▲ 100%
	営業損益	556	380	▲ 176	▲ 32%
金属リサイクル	売上高	3,012	2,800	▲ 212	▲ 7%
	営業損益	209	150	▲ 59	▲ 28%
調整等	売上高	-	-	-	-
	営業損益	▲ 20	10	+ 30	-
セグメント合計	売上高	3,065	2,800	▲ 265	▲ 9%
	営業損益	745	540	▲ 205	▲ 28%

連結バランスシート/キャッシュフロー 2025年度見通し

■ 連結バランスシート

(億円) 2025年3月末
(実績)



ネット有利子負債

2,429

2026年3月末
(見通し)



2,747

■ 連結キャッシュフロー

(億円)

2025年度
見通し

営業キャッシュフロー	1,055
投資キャッシュフロー	▲ 1,001
フリーキャッシュフロー	54
財務キャッシュフロー	▲ 102
現金同等物の増減額	▲ 48
為替変動による影響等	▲ 20

本資料に記載されている当社の目標、計画、見積もり、予測、予想、ターゲットその他の将来情報については、本資料の作成時点において、当社が入手できる情報をもとに、一定の前提に基づく当社の判断又は考えに過ぎず、実際の当社の経営成績、財政状態その他の結果は、国内外の経済情勢・市場環境、事業活動、他社との競争環境その他様々な要因等により、本資料の内容又は本資料から推測される内容と大きく異なることがあります。



JX 金属株式会社